



2026年4月24日  
東京製鉄株式会社  
株式会社マルストランスポートーション  
日本貨物鉄道株式会社  
J R貨物ロジ・ソリューションズ株式会社

## 鉄道用コンテナによる鉄スクラップの輸送開始について

～輸送時 CO2 排出量の約 32%削減を実現、サプライチェーン全体での脱炭素化を推進～

東京製鉄株式会社 (以下「東京製鉄」)、株式会社マルストランスポートーション (以下「マルストランスポートーション」)、日本貨物鉄道株式会社 (以下「J R貨物」)、J R貨物ロジ・ソリューションズ株式会社 (以下「J R貨物ロジ・ソリューションズ」) の4社は、CO2 排出量削減を目的として、鉄スクラップ輸送における鉄道輸送を5月より開始いたしますのでお知らせいたします。



今回新造した無蓋コンテナ (4/21 式典で撮影)

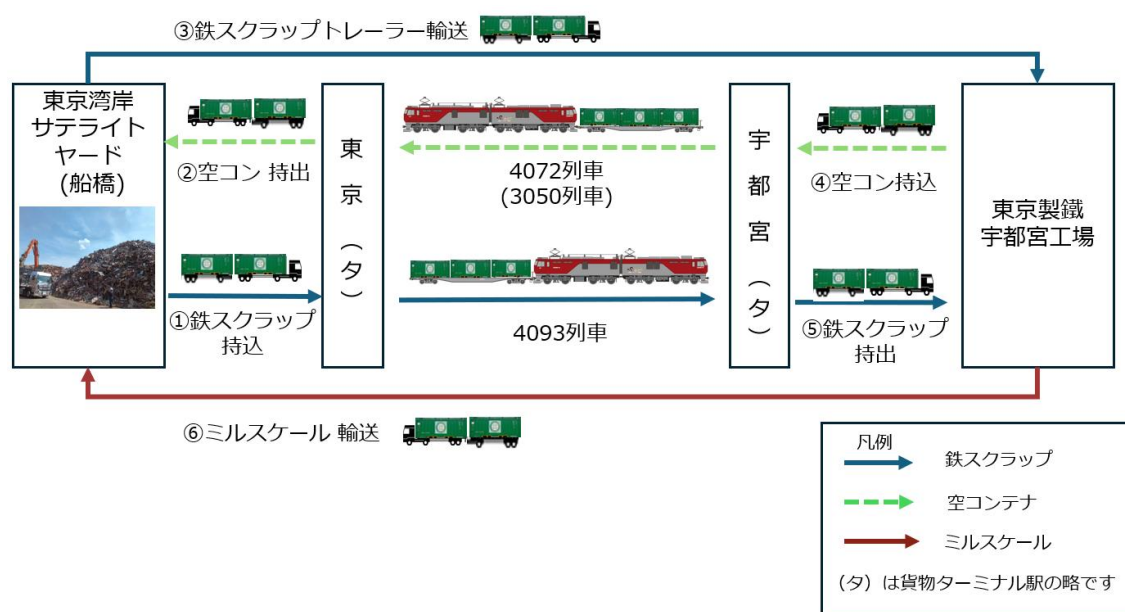
東京製鉄、マルストランスポートーション、J R貨物、J R貨物ロジ・ソリューションズは、環境負荷低減やドライバー不足などの物流課題解決を目指し、他社との連携を通じた物流効率化を進めています。

東京製鐵は電炉メーカーとして、鉄スクラップを主原料とした鉄鋼製品の製造を行っており、鉄スクラップの安定調達と効率的な輸送は事業の根幹をなすものです。これまでトラックによる陸上輸送及び海上輸送を主体としてきた鉄スクラップの輸送において、更なる輸送手段の見直しによる CO2 削減余地が大きいと判断し、4社が協力のうえ、今回の鉄道輸送の導入に至りました。

### ■取り組みの概要

東京製鐵の東京湾岸サテライトヤード\*から宇都宮工場への鉄スクラップ輸送において、これまで全量をトラックによる陸上輸送で行っていましたが、このたびその一部を J R 貨物の鉄道ネットワークを活用した運搬へ切り替えました。マルストランスポートーション及び J R 貨物ロジ・ソリューションズが、東京湾岸サテライトヤードから宇都宮工場までのトレーラー輸送と、駅までの集荷、駅からの配達部分を担い、J R 貨物が東京貨物ターミナル駅～宇都宮貨物ターミナル駅までの鉄道輸送を担います。

\*東京湾岸サテライトヤードとは、2025年6月に新たに開設したヤードで、首都圏で発生する鉄スクラップを効率的に集荷・集約するための中継拠点として機能しており、田原工場及び宇都宮工場への安定的な原料供給を支える重要な施設です。



鉄道輸送の概要イメージ図

## ■式典の開催

2026年4月21日、JR貨物 東京貨物ターミナル駅（東京都品川区）において、鉄道輸送用コンテナの完成を記念した式典が執り行われました。式典には4社の関係者が出席し、今後の連携強化と物流分野における脱炭素化への取り組みをともに推進していくことを確認いたしました。

## ■環境負荷低減への貢献

鉄道輸送はトラック輸送と比較してエネルギー効率が高く、本切り替えにより、輸送にかかるCO<sub>2</sub>排出量をトラック輸送比で約32%削減することが可能となります。また、鉄道輸送の活用は、CO<sub>2</sub>削減効果に加え、トラックドライバー不足という物流業界が直面する社会課題への対応としても有効であり、4社が連携することで持続可能な物流体制の構築にも大きく寄与するものと考えております。

東京製鐵は電炉による鉄鋼製造において、CO<sub>2</sub>排出量が大幅に少ない製造プロセスを有しております。今回の鉄道輸送の導入により、製造工程における低炭素化に加え、物流領域でのCO<sub>2</sub>削減を新たに実現されます。

## ■今後の展望

4社は今後、本取り組みの成果を継続的に検証しながら、サプライチェーン全体での脱炭素化をさらに推進してまいります。また、各社の強みを活かした連携強化により、鉄道輸送の対象路線や輸送量の拡大についても積極的に検討してまいります。引き続き、持続可能な社会の実現に向けて、製品の品質・供給力の向上と環境への責任を両立しながら、4社が協力してさらなる取り組みを推進してまいります。

以上